

町長 年頭のあいさつ

改革元年・輝かしい平泉を目指し



平泉町長
高橋 一男

新年明けましておめでとございます。町民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、当町にとりまして厳しいながらも、着実な一歩を踏み出した1年であったと考えております。

町民の悲願であります「平泉

の文化遺産」の世界遺産登録は、昨年6月の国際専門家会議を経て、9月には「平泉 浄土思想を基調とする文化的景観」として国の推薦が正式に決まり、12月にはユネスコへ推薦書が提出されました。順調にいけば、今年9月ごろに現地調査が行われ、来年には登録が決定されます。登録手続きとしては前進を見ただけですが、地元としてはまだまだ行っべきことがありま

す。条件整備を遺漏なく粛々と進めて、来年の歴史的瞬間を迎えたいと考えております。

世界遺産登録に向けては町内の各方面から温かいご芳志を頂いており、この場を借りて、御礼を申し上げます。

また昨年は、平泉中学校統合30周年や藤原基衡公850年御遠忌などの節目の年でもあり、国道4号平泉バイパス工事ははじめ、一閑遊水地事業関連工

の着実な進展など、明るい話題がありました。

その一方で、残念なこともありました。

前町長・鈴木清紀氏におかれましては、昨年7月、膵がんのためご逝去されました。一昨年1月に町長に就任されて以来1年半という、道半ばでのあまりにも早いご逝去でした。

鈴木町長は「当面の自立」を掲げ、そのための新たな仕組み作りを意欲的に取り組んでこられました。私は昨年8月に町長に就任以来、鈴木町長の継承を基本としながらも、さらなる環境変化に対応しながら当面の自立を実現すべく、粉骨砕身、努力してまいりたいと考えております。

また、目を外に転ずれば、旧合併特例法による市町村合併が一段落し、全国で3200余りあった市町村が1800余りとなった一方、北海道夕張市が財

政再建団体を申請するなど、自治体の財政危機が大きな社会問題となりました。

当町においても、今後の厳しい財政状況に対応するため、昨年12月に、新しい「行政改革大綱」と「集中改革プラン」を定め、さらなる行政改革に取り組んでいくこととしております。

中には町民の皆さまの負担増を伴うものも出てくると思いますが、町幹部や町職員が率先して、行政改革に向けた姿勢を示し、努力の先には、祖先から営々と受け継いできたふるさと「平泉」を、日本を代表する「平泉」として燦然と輝かせることができるよう、皆さまと力を合わせてまいりたいと考えております。

単独町政を選択した一昨年来「自立元年」とすれば、本年平成19年はいわば「改革元年」であり、名実ともに平泉町に行く末を見据え、町の、そして町民の真価が問われる年であると考えております。

終わりになりましたが、町民の皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新春のごあいさついたします。

教育長 年頭のあいさつ

安全で安心な教育実現のために



教育長
佐藤 敏雄

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本年は亥年、「猪」は、「猪突猛進」のイメージがありますが、「干支」の特徴である「勇気と冒険」をもって、それぞれの目標に向かって大きく飛躍したいものです。

昨年は、いじめにかかわる問題等が相次いで報道され、大きな社会問題となりました。「弱い者いじめ」は絶対に許されることではありません。いじめの背景にはいろいろある要因があると思いますが、第一は、家庭において幼児期から基本的な生活習慣や生活態度が十分に教育されていないということがあると思います。

特に、思いやりや正義感、善悪の判断についての「躰

が徹底されていないという問題が大きいと感じています。従いまして、学校での親身な指導は必要不可欠ではありますが、いじめは家庭教育の在り方に大きなかかわりを持っていること、家庭としての責任を持つということが重要であると考えます。

昨年末、教育基本法が改正されましたが、その中に「家庭教育」という条項が新設され、保護者が子どもの教育について第一義的責任を有することが規定されたことはご承知のことと思います。

今大切なことは、いじめの解消に向けて家庭教育の重要性とともに、家庭、学校、地域社会などすべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって真剣に取り組むことであると思います。本町の子どもたちからは、絶対に陰湿ないじめ問題が起こらないように、皆さま方のご協力を

頂きたいと思っております。

また、子どもたちの登下校時の安全確保のため、スクールガード・ボランティアを始め、地域の方々のご協力を頂きまして、大きな事件・事故等もなく新年を迎えましたことを改めて御礼申し上げます。

現在、本町では国のモデル事業を導入し、子供の安全に関する情報の効果的な共有システムに関する調査研究を行っています。携帯電話等のメール機能やICTタグ等を活用し、不審者情報をはじめとする各種情報を共有し、活用しようとするものです。是非本システムにアドレスを登録し、ご利用いただきたいと思います。

本町教育の第一命題であり「学力向上」と、子どもたちの安全で安心な教育を実現するため、微力ではありますが町民の皆さま方のご支援を頂きながら頑張っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

本年も、子どもたちとともに町民の皆さま方にとって、幸多き年でありますことをご祈念申し上げます。年頭のごあいさついたします。

12月の動き

自立施策推進PT

◎中尊寺通り整備

P.Tの課題の一つに挙がっていた住民コンセンサス(合意)を得るため、11月28日に駅前振興会の会員を対象に、中尊寺通り整備説明会を開催しました。標識のデザインや商店の看板などについて意見が出ましたし、これからも地元の皆さんと意見交換しながら、よりよい整備に結び付けたいと考えています。

◎特産品開発・販売

本年度はP.Tとして4回にわたり「漬物販売講座」を行いました。12月5日の会議で今後の活動について話し合った結果、プロジェクトチームの活動としては一区切りとし、漬物の商品化や加工品販売者の底辺拡大を目的とした自主的な研究会を立ち上げる方向となりました。いわばP.Tからの「一人立ち」となりますが、1月には新グループ立ち上げのための話し合いを行います。

◎公民館・図書館活動運営

10月27日に実施した一戸町立図書館の視察結果を報告します。これを参考に3月までに図書館運営プランを作成したいと考えています。

平成16年4月から図書館業務の一部(貸出し・返却、図書館事業の企画運営など)をNPO法人へ委託。

それまでの臨時職員がNPO職員となり引き続き勤務。業務委託のメリットは、長期的観点で専門職員を養成できること。

町民一人当たりの貸出冊数は年間14冊(平泉町は1.7冊)。このNPOには、図書館のほかに総合運動公園、コミュニティセンター、公園、交流館等の業務も委託している。

NPOの収入を上げるため、本の販売(仲介)、図書館の電算入力作業を他市町村等から受託している。